conneko-コネコ-

小笠原侑紀（環境人間学部 3 年），髙尾芽依（環境人間学部 2 年）

キーワード：子ども，地域，ボランティア

1. 団体概要

conneko-コネコ-は，地域の子どもを対象とした支援活動を行うボランティア団体と学生ボランティアをつなぐことで，支援者不足を解消するとともに，メンバーも活動に参加することで，経験の場を拡げることを活動目的としている団体である。現在は 3 年生 3 名，2 年生 1 名，1 年生 10 名の計 14 名が所属している。

2. 2024 年度の活動について

現在 conneko-コネコ-は，高砂市で毎月 1 回程度，地域の子ども食堂として運営されている「きっずきっちん曽根」，大阪府豊中市で毎月子どもたちを支援するイベントを開いている「ごはん処おかえり」，福崎町にある放課後デイサービス「ここな」を主な活動拠点としている。

1 つ目の「きっずきっちん曽根」は，地域における子どもたちの居場所づくりをコンセプトに運営されており，学生は子ども食堂の準備・片付け・調理の手伝い，子どもの遊び相手を中心に行っている。調理に参加しない幼児～中学生の子どもたちは大学生ボランティアと一緒に折り紙・トランプをしたり，近くの公園を使ったりして遊んでいる。メンバーは子ども食堂に来る子ども一人一人に合った対応の難しさを感じながらも，子どもとのかかわりを通して，私たち学生ボランティアの必要性を認識することができる。とりわけ，子どもたちとの身体を使った外遊びについては，学生ボランティアの存在が有効に機能しているといえる。一方で，子どもたちの遊びが携帯やゲーム機による個別の遊びに閉じていることが問題となることもあり，今後，遊びの在り方について検討していく必要を感じている。わたしたち学生ボランティアにとっては，スタッフさんが温かく対応してくれるため，ボランティア活動を通して多様な世代の方とコミュニケーションをとる力を身に着けるとともに，「居心地が良い」と感じることができる場になっている。

2 つ目の「ごはん処おかえり」では，未成年の子どもは営業時間中は無料でごはんを食べることができ，大人であっても，困窮時には無料提供される仕組み（お福分け）があり，地域の「食」を支えている。いわゆる多世代の地域食堂として，誰もが受け入れられる場所として機能しており，地域の課題を受け止め，みんなで支え合って生きていく居場所づくりを目指している。4 月には庄内神社でこども縁日に，12 月には庄内コラボセンターショコラでクリスマスイベントに学生ボランティアとして参加した。どちらも数百人規模のイベントで常に人手が足りない状態であったが，たくさんの子どもたちとかかわることができ，貴重な経験となった。何度も庄内の活動に参加しているとメンバーのことを覚えていて，会うのを楽しみにしてきている子どもたちも，スタッフもいる。継続的に参加することが子どもたちとつながるうえで重要なのだと実感し

写真１ きっずきっちん曽根

写真２ ごはん処おかえり

写真３　「ここな」川遊び

た。

3つ目の放課後デイサービス「ここな」は，さまざまな障がいを抱えた子どもたちが先生の指導のもと，みんなでUNOをして遊んだり，積み木や人形で遊んだりしている。通常は，専任のスタッフおよび有償ボランティアで運営されているため，外出するなどのイベントの際に，ボランティアとして参加している。ボランティアでは自然の家でバーベキューをしたり川遊びをしたりした。少人数の大人が大人数の子どもたち一人一人に目を配るのがとても難しく，ボランティアの必要性を感じた。子どもたちは元気いっぱいで常に引っ張りだこの状況だった。時間になって帰るときに子どもたちの「ありがとう」という声が今でも心に残っている。

3. 活動を通して学んだこと

以上のようなボランティア活動に継続して参加することの重要性を学んだ。子どもたちや地域の方々は，私たち大学生ボランティアと積極的に関わろうとしてくれ，一見無口そうな子どもでも，私たちが話しかけてみると，たちまち笑顔になり，自分からたくさん話をしてくれる。このように，地域側は私たちを歓迎してくれているので，課題発見という意味でも，せっかくコミュニケーションを取って構築した関係を一度きりで終わらせるのはもったいない。何度も対面することで，あだ名をつけて楽しみにしてくれるなど，子どもたちから信頼できる大人として覚えられ，今までは周りの人に言えなかった悩み事を相談してくれたりするケースが増えた。さらに，地域コミュニティーの一員として受け入れられ，子どもたちの成長の後押しをすることができたと感じられた。また，まだ活動場所に訪れていないまたは現在そうじゃなくとも，将来そうなる可能性が隠れた社会的不安を抱えた子どもの早期発見の必要性を感じた。

4. 今後の展望

昨年度は，「さらに多くのメンバーを集めることで，継続的なボランティア参加を可能にする」という課題があったが，1年生10名の新メンバーを確保することができ，上記の課題を解消することができたと考えている。しかし，この課題の原因にもなりうるが，メンバーが新学年になると退会してしまうという新しい課題がある。実際に，昨年度と比較して，3年生は4名減，2年生は16名減であり，活動継続において，深刻な事態であると認識している。学生は学業やアルバイトなどと両立しながらのボランティア活動への参加となるため，子どもたちとの継続的な関わりのためには，一定数の人数が必要である。対策として，メンバー同士が顔見知りになり，仲が深まると，積極的にボランティアに参加するようになり，学生団体として継続的に活動してくれるのではないかと考えている。よって，学生団体としての活動以外で，メンバーのみでの親睦会やミーティングの開催などの検討を行っている。さらには，ボランティアを介した課題や問題についてさらに掘り下げて検討していく場づくりも求められていると考えており，今後の課題である。

また，団体内で情報共有を行う基盤が整っておらず，個々での活動に留まってしまっている。conneko-コネコ-の目指す「子どもひとりひとりに沿った支援」を可能にするために，来年度は団体内で情報共有を行う基盤を整えることに力を入れていきたい。

活動場所について，「ごはん処おかえり」は，大学のある姫路から距離が離れているためアクセス面が悪い学生もおり，「ここな」は長期休み限定でボランティアを募集するという形が多く，conneko-コネコ-の活動としては月1回の「きっずきっちん曽根」のみが主体となっている。そのため，大学からなるべく近い場所で，ボランティア活動ができるような拠点を増やし，活動頻度が多くなればより良いと考えている。